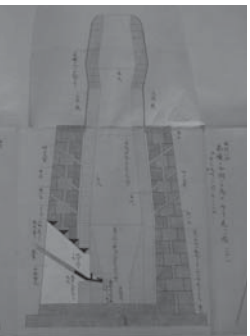




第5回 反射炉と高炉

鉦炉』で、反射炉に供給するための銑鉄を作るためのものでした。その仕組みも異なっており、反射炉は熱の反射で銑鉄を溶かしたのに対し、高炉は木炭を燃料にして鉄鉦石を還元させて銑鉄を作るといふものでした。

高炉と反射炉は大砲を作るために必要な連動したシステムであり、日本の『製鉄』を語る上では欠かせない資産なのです。



高炉断面図(古絵図)

九州・山口の近代化産業遺産群は、その名のとおり、主に九州、山口地区の資産で構成されています。その中で、釜石市の『はしのこうろあと橋野高炉跡』と伊豆の国市の『はしのこうろあと葦山反射炉』だけが、九州、山口地区以外から選ばれています。どちらの資産も、九州・山口の近代化産業遺産群のキーワードである『製鉄』『炭鉦』『造船』のうち『製鉄』という分野に該当する資産です。

葦山は『反射炉』、釜石は『高炉』。では、反射炉と高炉の違いはなんでしようか。

反射炉は『銑鉄を溶かし、大砲を作るための溶解炉』です。一方の高炉は『鉄鉦石を溶かし、銑鉄を作るための溶

平成24年7月24日に、同遺産群の世界遺産登録推進協議会総会が行われました。今回の総会で構成資産が、8エリア、28資産となり、エリア番号が時代順に変更になりました。その結果、葦山反射炉は、今までのエリア9からエリア4になりました。

世界遺産推進課

☎ 055(948)1425